

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570800577		
法人名	社会福祉法人 鼎会		
事業所名	グループホーム かなえ		
所在地	山口県岩国市錦見3丁目7番55号		
自己評価作成日	令和3年2月9日	評価結果市町受理日	令和3年6月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
聞き取り調査実施日	令和3年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市街地にありながら幹線道路から少し入った静かな環境にある。木の温もりに包まれた日本家屋を意識して設計されており、(囲炉裏や中庭がある)家庭的で落ち着いて生活が送れる。窓も大きく開放的であり、日中は施設もしておらず、のびのびした雰囲気生活できる。現在は新型コロナウィルスの影響で外出ができていないが、通常であれば定期的に地域のなじみの場所などに外食や外出を行っている。食事は食材は外部委託の配達サービスを利用し毎食ホーム内で手作りしている。嗜好や季節に合わせて旬の食材を地域の商店に買い物に行っている。季節に合わせて行事食を(鍋料理や郷土料理など)一緒に調理して楽しんでいた。今年度は外食もできなかったが、ホームの中庭でバーベキューや縁日など開催し楽しんでもらった。菜園も設けており、利用者と一緒に苗を植え収穫した旬の野菜などを使用して調理を行っている。特養の喫茶などにも参加しカラオケなども定期的に楽しんでいる。協力病院の医師や看護師、歯科医、薬剤師と連携することで健康面でも安心して暮らせている。個々のペースに合わせて自由にゆっくり過ごせるよう配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新型コロナの影響で外出や家族との面会などが制限される中で、職員は、利用者が室内でも活躍できる場面づくりや楽しみごと、気分転換を図れるよう工夫され支援されています。テレビやDVDの視聴、新聞を読む、雑誌を読む、本を読む、カラオケ、パズル、百人一首、ことわざカルタ、黒髭ゲーム、廊下の散歩、脳トレ、チラシのごみ箱づくり、シール貼り、ぬり絵、書初め、プランターや畑の苗植え、水やり、草抜き、収穫、生け花、寄せ植え、居室の掃除、ゴミ出し、洗濯物干し、洗濯物たたみ、食事の手伝い、おやつづくり、岩国寿司づくり、スイカ割、編物、季節の壁画づくり、鏡開き、節分、母の日、運動会、敬老会、誕生会、ホーム内の縁日での輪投げや釣りゲーム、花火、クリスマス会、移動売店の利用、法人の祭りで浴衣、ハロウィンなど、趣味や得意なことを継続して実施されています。外部委託による食材の他、週1回、旬の野菜を含めて食材を職員が購入されて、三食とも事業所で食事づくりをされています。利用者は、米とぎや盛り付け、配膳、下膳など、できることを職員と一緒にしておられ、食事形態では、ソフト食の購入やさざみ、とろみ、ミキサーなどに配慮されています。季節の行事食(年越しそば、おせち、鏡開き、冬の鍋料理、節句や端午の寿司、土用のうなぎ、夏のバーベキューやバイキング、緑日のかき氷、ソーメン流し、秋の松茸ご飯)やおやつづくり(ゼリー、スイートポテト、たこ焼き、ホットケーキ)、誕生日の好みの食事や仕出し料理、サンドイッチオードブル、敬老会の祝膳、週1回の移動パン屋の利用など、食事を楽しむことができるように支援をされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印					
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と				
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと				
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと				
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない				
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように				
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度				
			3. たまにある				3. たまに				
			4. ほとんどない				4. ほとんどない				
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない				
			4. ほとんどいない				4. 全くいない				
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない				
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が								
			2. 利用者の2/3くらいが								
			3. 利用者の1/3くらいが								
			4. ほとんどいない								

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を事業所内に掲示するとともに、毎月の会議や定期的なホーム内の研修時に唱和して理念の共有を図り、日々のケアに活かしている。	法人理念と地域密着型サービスの意義をふまえた事業所の運営方針を事業所内に掲示し、職員は、月1回のグループホーム会議や研修時に理念を唱和している。職員は、温かい家庭的な雰囲気や環境づくりと利用者本位のサービスに努め、地域や家族との結びつきを大切にするよう、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人として自治会に加入し、災害時の地域の避難場所となっている。地域の人のボランティア、専門学校の学生などと交流している。併設の特養で、月1回開催している喫茶に参加し、地域のボランティアの方と交流している。	法人全体として自治会に加入している。新型コロナウイルスの影響で、地域行事や法人主催の行事が中止となり、利用者が地域の人と交流する場面は少くなっている。秋の法人主催の祭りでは、法人施設の特別養護老人ホームの利用者や職員と交流している他、月1回、法人施設内で開催している喫茶に参加している。年間を通して、介護と看護の専門学校の生徒の実習を受け入れている。法人敷地内の散歩時やゴミ出しの時には、隣接の障害者施設の利用者と挨拶を交わしている。地域の人から、花やクレヨン画の差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は特にない。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義、自己評価を全職員で取り組むことについて説明を行い実践している。	管理者は、グループホーム会議で職員に評価の意義を説明している。自己評価をするための書類を全職員に配布し、記入した書類について申し送りで確認し、最終的に管理者がまとめている。評価を通して、コロナ禍における外出の工夫、家族との面会の方法、内部研修の実施など、出来ることから改善に向け取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、特別養護老人ホームと合同で2か月に1回開催している。利用者状況、活動報告、ヒヤリハット、事故報告などを行っている。参加者と意見交換し、職員間でも話し合い、利用者が快適に過ごせる支援についての意見をサービス向上に活かしている。	会議は2ヶ月に1回、法人の特別養護老人ホームと合同で開催している。内4回は新型コロナウイルス感染予防対策の一環として文書で開催し、会議のメンバーに資料や報告書(利用者の状況、活動報告、ヒヤリハット・事故報告)を送付し、意見交換をしている。参加者から、利用者一人ひとりの持ち物の確認が必要との意見があり、定期的に確認を行ったり、コロナ禍での面会の工夫としてテレビ電話やリモート面会を実施するなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月利用状況を報告している。市担当とは、出向いたり、メールやFAX、電話で相談し助言を受けたりしている。地域包括センター職員とは、運営推進会議時に情報交換、利用状況について話し合っている。	市担当者とは、直接出向いて相談したり、電話やファックス、メールで情報交換するなど協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に、利用者の状況について相談をするなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修において身体的拘束適正化のための研修を2回受講している。3か月に1回、特養と合同の身体的拘束適正化検討委員会を開催して、職員は身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックなど事業所内でセルフチェックや研修を行い職員間で理解を深めている。	職員は、年2回、法人研修で学び身体拘束をしないケアに取り組んでいる。3ヶ月に1回開催している法人と合同の身体拘束適正化検討委員会には管理者が出席し、グループホーム会議で職員に報告している。スピーチロックについては、職員同士で注意をしている他、気になる言動については管理者が指導している。玄関の施錠はせずに、外に出たい利用者には、散歩やドライブなど職員が一緒に出かけて閉塞感を持たない環境づくりに努めている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修において、虐待防止について学ぶなど、虐待がおきることのないように努めている。定期的に職員全員でセルフチェックをおこなっている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に行っていない		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間を取って、利用者や家族に説明している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、相談や苦情の受付体制、第三者委員、処理手続きについて家族に説明している。面会時や運営推進会議時、他科受診時など意見要望を聞く機会を設けている。苦情、要望があれば職員間で話し合い対応することとしている。運営に反映させるまでの意見は出ていない。	契約時に、相談苦情の受付体制や処理手続き、第三者委員などについて家族に説明している。面会や運営推進会議時、受診時、事業所だよりの手渡し時、請求書送付時、電話などで家族の意見や要望を聞く機会を設けている。事業所だよりで、利用者の健康面や日常の様子、行事予定などを知らせている。家族からは、コロナ禍における外出や外食、面会の制限、ボランティアの受け入れなどの相談や意見があり、利用者ごとの申し送りノートや生活ケース記録、連絡ノートに記録し、管理者や職員で話し合い対応している。運営に反映させるまでの意見や要望は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回の個人面接や月1回の会議、休憩時間などに職員からの意見や提案を聞く機会を設けているほか、日常的にコミュニケーションを図り、意見を聞くように努めている。出た意見は反映させるよう努めている。	管理者は、年2回の個人面接や月1回のグループホーム会議、昼の休憩時間などで職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中で職員に声をかけているなど、意見や要望を出しやすい環境を整えている。業務内容の変更、個別ケアの対応など職員から出た意見や要望は反映させるよう努めている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議や面談時に出た意見を職場環境などの整備に活かし、やりがいにつながるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	外部研修の参加の機会は少ないが参加でき るように努めている。月に1度の施設内研修 (防災対策、事故防止対策、感染予防)など に参加している。施設内研修の復命報告と 緊急時の対応(吸引、タッピング)、認知症研 修を実施している。日常業務の中でも働きな がら学べるように支援している。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段 階に応じて勤務の一環として受講の機会を提 供しており、管理者が、ケアマネ研修に参加 している。法人研修は、年間計画に基づい て、法人の各施設が分担して月1回開催し、 感染症、事故対策、身体拘束適正化、高齢 者虐待、介護職員の接遇、ターミナルケアに ついて実施している。内部研修は、法人研修 の復命報告と認知症の対応、緊急時の対応 について実施している。新人研修は、採用時 の法人研修の後、管理者が日常の業務を通 して指導している。資格取得に対しては、経 費の補助など働きながら学べる支援をしてい る。	・計画的な研修の実施
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	グループホーム協会には加入しているが、 研修なども少なく交流の機会はないが今年 度は新型コロナウイルス対応での職員に労 いなどで岩国・柳井ブロックでは手作りマスク の配布やカフェのクーポンなどの配布などで 交流をもった。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の時点で、不安や要望など、現状 をできるだけ聞き取るようにしている。入居後 もセンター方式を利用して情報収集を行い、 本人の思いの理解に努めている。本人の言 動も、その都度記録し、状態に合わせた対 応を検討してみる。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	入居相談の時点で、不安や要望など、現状 をできるだけ聞き取るようにして関係作りに 努めている。また、不安があれば入居の決 まっていない段階でも電話対応や見学を受 け入れている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	訪問診療などのサービスを利用して連携を 取っている。家族が遠方の方は、他のサー ビスの可能性を入居時に話している。将来 的に不安を持たれている方には特養の申し 込みの案内をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、家事や菜園に参加していただき、調理や収穫の助言なども求めて、本人の活躍の場面を作るようにしている。その都度、感謝の言葉を掛けるようにして役割を実感できるようにしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当職員から利用者の健康状態やホームでの様子、行事予定などを写真を添えて受診時に渡したり郵送を毎月行っている。受診時や電話などでも本人の近況を細かく伝えている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は面会があまりできなかったが、知人や友人などの電話の取次ぎ、手紙や年賀状での交流を支援している。自宅周辺や、思い出の場所のドライブなど行い関係が途切れないように努めている。	コロナ禍での面会の制限がある中、面会ができる時には、家族や孫の来訪があり、玄関での面会や窓ガラス越しの面会などを工夫している。電話の取り次ぎや年賀状や手紙、絵手紙での交流を支援している。家族の協力を得て、受診に合わせての外出を支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者同士の関係を把握し、席の配置や作業の組み合わせなど配慮している。利用者同士が良好な関係が作れるよう声掛けや配慮を行っている。各所にもテーブルやソファを配置して少人数でも過ごせるよう配慮している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	OBとして運営推進会議に参加していただき、今年度はできなかったが、例年では敬老会やクリスマス会などでピアノ演奏などのボランティア参加もあり、関係が途切れないよう支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で利用者の言動や表情、気づきなどを生活記録に書き入れ、その時の意向や思いをつかむよう努めている。明確な言葉が表出できない利用者や精神状態が不安定な利用者にはセンター方式の本人の思いのシートを利用し支援計画や内容の検討を行っている。	入居時のセンター方式のシートやNPI－NH評価用紙及び認知症BPSDアセスメントシートを活用している他、日々の関わりの中での利用者の様子や表情、気づきなどを生活記録や支援経過記録に記入し、本人の希望や意向を把握し職員間で共有している。困難な場合は、センター方式の思いのシートの活用を基に職員で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス提供初期から生活歴の聞き取りに努めており、センター方式を利用してアセスメントを行い記録している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の本人の習慣や現在の本人の心身状態を見ながら記録やカンファレンスを行い把握に努めている。日々の状態の変化も細かく報告、協議を行い早めの対処ができるよう努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で検討した内容を計画作成担当者がまとめて、プラン作成をしている。モニタリングは3か月毎に担当職員が行い、サービス担当者会議で全職員で協議している。可能な限り利用者、本人の意見を聞きながら6か月毎にプラン更新を行っている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に、本人、家族の意向、主治医、法人の看護師、訪問看護師、歯科衛生士、栄養士の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直しをしている。利用者の状態が変化した場合は、その都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	SOAP式用紙を使用し、本人の言動、介護者の考察、実施した介護内容など細かく記録に残し、情報の共有、プランの見直しに活かせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態に合わせて医師や薬剤師、福祉用具業者などに相談助言をもらいながら、状態に合わせたサービスを提供している。本人や家族の要望に合わせて可能な限り実現できるよう職員間で話し合いの場を設けたり、情報収集を行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は、できなかったが、定期的な地域のボランティア訪問(傾聴、紙芝居、カラオケ等)により、楽しみのある生活を送れるよう支援している。近隣商店への買い物や神社のお参り、馴染みのお店への外出など楽しめるよう支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族と相談して複数の医療機関から納得の得られる主治医を決めてもらっている。他科受診については、本人や家族の希望により、主治医以外の病院の受診もある。	協力医療機関は複数あり、本人や家族が希望する医療機関をかかりつけ医としている。受診や月2回の訪問診療など、それぞれの協力医療機関に応じて支援をしている。他科受診を含め、受診は家族の協力を得て事業所で支援をしている。歯科受診は、月1回、訪問歯科診療で対応している。夜間や緊急時は、職員がそれぞれのかかりつけ医と連携し、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要時には、かかりつけ医の病院の看護職員に連絡し相談している。訪問診療対応時には訪問時に状態を詳しく報告している。併設の特養の看護職員に相談やアドバイスなど支援を受けられる体制がある。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には書面にて情報提供を行っている。入院後の電話などでMSWと必要な情報交換を行っている。病状や退院時期についても細かく聞き取り、スムーズな退院に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針に基づいて、事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族の意向を聞き、主治医と話し合い、看取りや医療機関への入院なども含めて方針を決めて共有している。	重度化や終末期に向けた方針に基づいて、契約時に事業所で出来る対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族の意向を聞き、主治医と話し合い、看取りや医療機関への入院や移設を含めて方針を決め、共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故報告書やヒヤリハット報告を作成し、発生状況の把握や事故防止策の検討を行っている。月1回の会議で発生状況の把握と発生時の対策が活かされているかなど、検討を行っている。非常時の吸引やタッピング方法などについて定期的に研修を行っている。	「事故防止及び事故発生対応マニュアル」を常備している。事故防止については、事例が発生した場合に、対応した職員が、ヒヤリハット・事故報告書を作成し、他の職員には申し送り時に報告し、報告書のコピーを回覧して共有している。発生状況の把握と今後の対応策をグループホーム会議で検討し、事故防止に取り組んでいる。月1回、法人の事故対策委員会に再発防止の報告をしている他、必要に応じて、安全対策委員会に協力を依頼している。事故発生への対応については、応急手当や初期対応の訓練として、吸引やタッピングなどを学んでいる他、特別養護老人ホームでのAED講習に参加しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための 応急手当や初期対応の訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練についてのマニュアルや計画を作成し、定期的に法人と避難訓練を実施している。(夜間想定での避難誘導、通報訓練、消火訓練)。法人で地域の自治会との災害応援協定を締結しているほか、法人施設は地域住民の避難場所にもなっているなど協力体制を築いている。	防災計画に基づき、法人と合同で年2回(内1回は消防署の協力を得て)、昼夜間を想定した火災事の通報訓練、避難訓練、消火訓練を利用者と一緒に実施している。年1回、夜間の土砂災害を想定して、緊急時の連絡網の確認をしている。法人として地域の災害応援協定を結んでいる他、法人施設は、地域住民の避難場所となっているなど、地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所は毎日、業務の終了時に全職員個別に認知症対応や接遇に関するセルフチェックを記入し振り返りを行っている。周辺症状のある利用者に対してありのままを受け止め誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに努めている。不適切な声かけや対応があれば迅速に指導、話し合いをおこなっている。	「利用者の権利に関するマニュアル」を作成している。職員は、接遇に関するセルフチェックを毎日実施し、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切なケアについては、職員同士で注意する他、管理者が指導している。個人記録の保管や取り扱いに注意し、職員は、守秘義務について理解し遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	質問口調で声掛けするよう努めている。利用者本人の選択が難しい場合は選択肢を提供し自己決定できるように工夫している。毎日のお茶の時間には個々で好きな飲み物を選択してもらったり、誕生日も本人の望むイベント(外食、買い物、食事内容、プレゼント)を聞き取りしてお祝いしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールは大まかには決めているが、天候や利用者の希望に合わせて映画鑑賞やパズル、かるたや計算ドリル、壁画作りなどのレクリエーションなど行っている。今年度は外出があまりできなかったが、天気の良い日にはホーム周辺を散策したり、特養の屋上の散歩などを行った。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時には、本人に毎回、洋服を選んで準備してもらっている。本人の好みの洋服を家族に頼んで持ってきていただいたりしている。化粧をする方や自分ですることが難しくなってきた方も継続して行えるように、口紅や眉を塗る支援も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は外部委託を利用して、三食とも事業所で調理している。利用者は下ごしらえ、米研ぎ、盛り付け、下膳、テーブル拭き、コップ洗いなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じものを食べながら味付けや盛り付けなどの話を楽しんでいる。	食材は外部委託を利用している他、週1回、旬な野菜など食材を職員が購入して、三食とも事業所で調理している。利用者は、米とぎ、盛り付け、配膳、下膳、テーブル拭き、トレー拭き、コップ洗いなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じものを食べている。ソフト食を購入したり、きざみやとろみ、ミキサーなど食事形態にも配慮している。季節の行事食(年越しそば、おせち、鏡開き、冬の鍋料理、節句や端午の寿司、土用のうなぎ、夏のバーベキューやバイキング、縁日のかき氷、ソーメン流し、秋の松茸ご飯、クリスマスのケーキ)やおやつづくり(ゼリー、スイートポテト、たこ焼き、ホットケーキ)、誕生日の好みの食事や仕出し料理、サンドイッチオードブル、敬老会の祝膳、週1回の移動パン屋の利用など、食事を楽しむことができるように支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一口大から刻み、粥など本人の状態に合わせて対応している。ソフト食も外部委託注文で対応している。とろみが必要な方も状態に合わせて、とろみの量を調整している。水分の進みにくい方には、甘味料を入れたり、本人の嗜好に合わせた物を提供している。嗜好に合わせて代替えができるように補食も常備している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各利用者の状態に合わせて、毎食後、声掛けを行って促している。自分で出来ない方や見守りが必要な方、物品の管理が難しい方など個々に合わせた介助を行っている。毎月、歯科医師、歯科衛生士にも指導をもらっている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンの把握に努め、できる限りトイレでの排泄が続けられるよう誘導や介助を行っている。失敗があってもパットや紙パンツだけに頼らず状態に合わせたアイテムを家人と相談して選択している。	排泄管理表を活用して、利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりに応じた声かけをして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確保ができるよう、お茶の時間や入浴後に水分摂取の時間を設けている。排便状態に合わせてミルミルSやオリゴ糖、ヨーグルトなどの摂取を促している。便秘予防に歩行を促したり、体操などを行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は日曜日以外の毎日、14時から15時半の間にゆっくり入浴できるように支援している。利用者一人ひとりの要望や状態に応じて、清拭やシャワー浴、足浴などの対応をしている。入浴を嫌がられる方には声掛けの工夫をしたり、時間を変更するなど、個々に合わせた入浴の支援をしている。	入浴は、毎日14時から15時30分まで可能で、利用者一人ひとりの希望に応じてゆっくりと入浴を楽しめるように支援している。体調に応じて、シャワー浴や清拭、足浴、部分浴を行ったり、移動式シャワーキャリーを利用している。入浴したくない人には、家族からの電話や手紙、時間の変更や職員の交代、声かけの工夫をして対応している他、防水ラジカセで音楽を楽しんだり、職員とゆっくり会話を楽しむなど、利用者一人ひとりに応じた入浴を支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自のペースや体調に合わせている。日中でも本人の体調や習慣に応じて横になれる時間を取れるようにしている。夕食後も就寝前まで本人の習慣に合わせて一緒にテレビを見たり、お茶を楽しんでゆったり過ごせるよう対応している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導により、内服方法や、副作用などの相談や助言などを受けている。職員一人ひとりが処方薬の理解に努めている。薬の変更の際には薬剤師から説明を受け職員間で共有できるよう申し送っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	プランターや畑の苗植え、草抜き、居室の掃除、ゴミ出し、洗濯干し、洗濯物たたみ、花や野菜の水やり、野菜の収穫、新聞や雑誌を見る、郷土料理を作るなど活躍できる場面づくりをして、楽しみ事や気分転換などの支援を行っている。	テレビ(ニュース、動物番組、歌番組)やDVDの視聴、新聞を読む、雑誌を読む、本を読む、カラオケ、パズル、百人一首、ことわざカルタ、黒髭ゲーム、廊下の散歩、脳トレ(計算ドリル、漢字ドリル)、チラシのごみ箱づくり、シール貼り、ぬり絵、書初め、プランターや畑の苗植え、水やり、草抜き、収穫、生け花、寄せ植え、居室の掃除、ゴミ出し、洗濯物干し、洗濯物たたみ、食事の手伝い(テーブル拭き等)、おやつづくり、岩国寿司づくり、スイカ割、編物、季節の壁画づくり、鏡開き、節分、母の日、運動会、敬老会、誕生会、ホーム内の縁日での輪投げや釣りゲーム、花火、クリスマス会、移動売店の利用、法人の祭りでの浴衣、ハロウィンなど趣味や得意なことが継続してでき、活躍できる場面づくりをして利用者の楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は外出があまりできなかったが、ゴミ出しや、周辺の散歩などは行った。バラ園など車内からのドライブなどを楽しんだ。例年では錦帯橋の桜、菖蒲、外食、地域のスーパーへの買い物など戸外に出かけられるよう支援している。	周辺の散歩やゴミ出し、特別養護老人ホームの喫茶の利用や屋上の散歩、季節の花見(さくら、ばら)、ドライブに出かけている他、受診時に家族の協力を得て自宅への一時帰宅や外出、外食など外出を楽しめる支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の方にはお金は所持してもらっていないが、買い物外出の際には、職員と共に支払いするなど行えるようにしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、個人の携帯電話の所持も可能としている。事務所の電話も希望があれば使用できるが、自分から掛けられる方は少ない。遠方の家人から定期的に掛かってくる方と話をすることがある。今年度は面会があまりできなかったため、絵手紙や年賀状を全員で書いて郵送したり、家人からの手紙を本人に渡したり、代わりに読み上げたりといった支援を行った。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内は回廊式になっており、中庭に面した履きだし窓からの陽射しで、廊下や食堂は明るく、庭に植えた梅や桃の木を眺めることができる。回廊式の廊下にはテーブル、椅子、テレビなどを配置し利用者の居場所となっている。食堂には季節に応じた壁画作り、食事のメニュー表、行事の写真などを飾り、季節感や生活感を感じることができるようにしている。	玄関は、地域の人からのクレヨン画を定期的に入れ替えている他、ひな人形など季節の飾りや季節の花を飾って季節感や生活感を感じることができる。和室の室内は回廊式になっており、中庭に面した掃き出し窓からの陽ざしで廊下や食堂は明るく、庭に植えてある梅や桃の木を眺めることができる。回廊式の廊下には、テーブル、椅子、ソファを置き、利用者の居場所となっている。食堂の壁面には、季節の飾り、折紙など利用者の作品、手づくりのカレンダー、行事の写真を飾っている。温度、湿度、換気に配慮して居心地良く過ごせる工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内の各所に椅子やテーブル、テレビを配置し、思い思いの場所で気の合う方同士で過ごしたり、好きな番組を見ることができるようになっている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の物はできる限り、使い慣れた物を自宅から持ってきていただいている。家族写真など飾って自宅に近い環境設定を行い、居心地の良い空間作りをしている。利用者の状態に合わせて家族と相談しながら配置換えなども行っている。	ベッド、ハンガーラック、スクリーン、三段棚、スタンド、テレビ、ソファ、座椅子、時計、丸テーブル、加湿器、化粧品、生活用品、ぬいぐるみ、雑誌、本、化粧品などこれまで使い慣れたものや好みのもを持ち込み、居室前には、季節の手づくりのリースを飾り、居室内には、家族の写真、カレンダー、色紙を飾って本人が居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口や浴室、トイレなどそれぞれが分かりやすいよう表札以外にも工夫している。利用者の状態に合わせて表記があった方がいいものなども、その都度合わせて作成している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム かなえ

作成日： 令和 3 年 6 月 7 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	14	法人の施設内研修はあるが、グループホーム内の研修や外部研修の参加などが不十分。	計画的な研修の実施	グループホームの研修を計画的に実施する。外部の研修にも積極的に参加し、グループホームでも伝達研修を行うなどし、知識の充実を図る。	6ヶ月
2	35	事故発生時や応急手当の訓練は、定期的に行ってはいるが、内容也多岐にわたるため、事象に合わせた継続的な訓練が必要。	全職員の応急手当や初期対応などの実践力を身につけるための訓練の継続	事象に合わせた応急手当や初期対応の訓練の実施。法人の看護職員の協力や外部研修、外部講師によるものなども検討する。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。